

< 第15回 基準諮問会議 議事概要 >

(議事概要3) 企業会計基準委員会の最近の活動状況について

都 ASBJ 常勤委員より、ASBJ の最近の活動状況について報告がなされた。また都 ASBJ 常勤委員及び新井 ASBJ 副委員長から審議中の個別プロジェクトの状況として、企業結合と無形資産について説明がなされた。その後、以下のとおり委員より意見が出された。

< 企業結合について >

- 少数株主持分の取扱いについて、企業の評価、親会社の株式を買うか買わないかを評価するにあたっては、その投資家としてのキャッシュ・イン・フローに関心があると考えられ、合理的に判断するのであれば親会社説に基づく利益を報告することが当然ではないかと思われる。もしそれを変更するのであれば、なぜ経済的単一体説のほうが優れているのか、そこではどのような投資の評価モデルが想定されているのか等を合わせて慎重な検討をお願いしたい。
- 親会社に関する当期純利益や一株当たり当期純利益は重要であり、表示については十分検討する必要がある。また、当期純利益は、臨時報告書や適時開示等の要件とされているため、これらに与える影響も検討して欲しい。
- 支配の喪失に関する検討について、子会社及び関連会社に対する投資については、事業投資であり、事業分離等の検討においても、それとの整合性が考慮されていたはずである。したがって、今回、会計処理を変更するのであれば、金融商品会計基準の変更も併せて検討する必要があるのではないか。
- 企業結合に係る特定勘定の取扱いについては、企業結合の支払対価に反映されているため計上されていると理解しているが、なぜ廃止が検討されているのか。

< ASBJ の活動状況について >

- 今後、IASB への対応については、プロアクティブな対応が重要であり、方針を具体的に示す必要がある。例えば、アジェンダ・コンサルテーションでも指摘している OCI や純利益についてはワーキング・グループのようなものも必要ではないか。

以上